

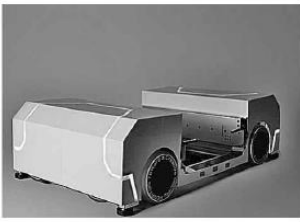
インタビュー

RENATUS ROBOTICS
CTO

服部 秀男氏

RENATUS ROBOTICS (レナトスロボティクス、米アラウエア州) は、世界初の「ワンストップ梱包」型の自動倉庫システムを手

がける企業。独自の数値アルゴリズム技術に強みを持つAI・ロボティクスベンチャー、TRUST SMITHグループからカーブアウトするから設立され、202



独自の自動倉庫システムを展開

東大ベンチャーからカーブアウト

製造業、物流、自動運転などの分野に応用し事業を展開している。ロボテ



ただいた。そこで、その

服部 当社の自動倉庫

「集約」「梱包」の3工

う製品や商品が多いほど強みを発揮できるソリューションであり、EC関連の倉庫のほか、電子関連部品などを扱う倉庫などにも適している。シャトルの走行性能も高く、精密部品でも安定的に運搬できる。シャトルなどに搭載する電子部品の面では、高効率のDC-DCコンバーターやブラシレスモーターなどがあれば、より性能を高められると考えており、そうし

いく。それと並行してレナトスを導入した倉庫を自社で整備し、日本で配送代行事業を24年ごろから行う予定だ。自社でレナトスを活用することで高効率なシステムであることを自ら示すとともに、システムの実運用を通じて製品のアップデートを重ねていく。そして次世代の自動倉庫システムを世界中の大規模な物流センターに提供するとともに、配送代行事業も並行して強化していきたい。ナスダック上場も見据えながら5年以内に累計で5億ドル以上の案件を獲得することを目指す。また、TRUST SMITHグループには、モダレスでのロボットピッキング技術なども有していることから、グループ内での技術の融合も進め、倉庫内作業の完全無人化も目指していきたいと思う。(聞き手・副編集長 浮島哲志)

回、CTOの服部秀男氏に話を伺った。

まずはTRUST SMITHグループの取り組みから伺います。

服部 TRUST SMITHは、19年に設立された東京大学発のAIベンチャーで、自律走行、物体認識、最適化、群制御、データ解析などの要素技術を、ロボティクス

専用シャトルの「RENATUS SHUTTLE」

イクス分野では、モダレスで高精度かつ高速のばら積みピッキングが行えるロボットシステム、独自の自律走行型AGV、AGVの大規模な群制御が行えるシステムなどを開発してきた。

レナトスロボティクスの設立に至った経緯は。

服部 ある大手ECサイトを手がける企業から物流施設の自動化システ

ムについて、相談をいただき、当社の持つ自動走行ロボットや配車アルゴリズムなどを融合した自動倉庫システムを提案したところ、非常に高い評価をいただいた。そこで、その

月ごろから本格的な事業活動を開始した。ちなみに、レナトスロボティクスは米国市場を主戦場と捉えており、米国人が本社で、日本人は支社という位置づけだ。

貴社製品の特徴などについて教えてください。

供給するタイミングは、シャトル2000台を同時制御できる独自の「RENATUS CO-RTX」によって完全に順立せられ、作業者はコンテナからピッキングした荷物をそのまま出荷用の段ボールに繰り返し入れるだけで「ピッキング」「集約」「梱包」の3工

自動倉庫システムを世界中の物流センターに提供することを旨とし、TRUST SMITHからカーブアウトするから設立したのがレナトスロボティクスだ。22年2月にRENATUS ROBOTICS(株)(東京都文京区)、22年5月に米国法人を設立し、その後、事業展開に向けたR&D期間を経て、22年11

システム「RENATUS S」(レナトス)は、倉庫内に建てられた高さ5~20mのラック内において、敷設されたレール上で専用シャトル「RENATUS SHUTTLE」が走行し、注文商品が入った箱を作業者のもとへと運ぶシステムだ。シャトルは業界最速(4m/s)の輸送を実現しており、作業者へ商品箱

程を一度に達成できる。こうした特徴によって作業員1人あたり500回以上/時のピッキングが可能となり、作業員が倉庫を歩いてピッキングする方法に比べて約20倍の高効率を実現できる。

エレクトロニクス向けの活用やシャトルに搭載する電子デバイスについて。

服部 まずは引き合いをいただいている企業と連携しながら、各施設に適したシステムを構築していきたい。海外での規格や認証なども取得していきたいと思う。

レナトスは、扱

レナトスは、扱

レナトスは、扱

レナトスは、扱

レナトスは、扱